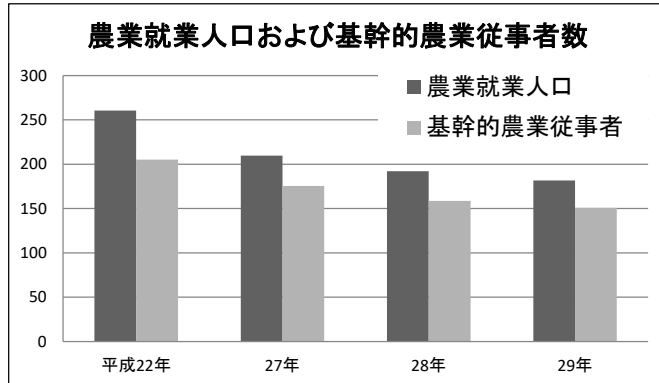


1年道德通信

第24号

第24回『日本のお米』



【注】

- 1 「農業就業人口」とは、15歳以上の農家世帯員のうち、調査期日前1年間に農業のみに従事した者又は農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多い者をいう。
- 2 「基幹的農業従事者」とは、農業就業人口のうち、ふだんの主な状態が「仕事为主」の者をいう。

農業労働力に関する統計（農林水産省）：平成30年6月1日現在

第24回目の道德では、米や稲が日本の食文化や自然環境を支えてきたことを説明した文章を通して、伝統的な農業や文化を引き継いでいくことの大切さについて考えました。お米は日本人にとって、かけがえのない主食であるとともにお酒やお菓子にも加工されています。また、畳には稲が使われ、昔はわらじなどもあり、私たちは、さまざまな生活の場面でお米に支えられてきました。3000年近くの間、米作りが受け継がれてきたおかげで、先祖代々日本人は、この国土に生き続けることができました。米作りは、自然との関わりも密接です。水田は、雨を受け止めて地下にしみ込ませ、ダム役割を果たしています。しかし今、日本は、水田が潰され、農業をする人がどんどん減ってきています。私たちにとって、お米とはいったい何だったかということを、みんなで考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

みんなの意見

昔の日本人が大切にしてきた伝統文化に対して、現代を生きる私たちができることはどんなことだろう。

- ・私は普段、お弁当に入っているご飯などは一粒も残していないけど、お父さんや弟が残している時があるから注意をしたいと思います。
- ・お米は作るのに苦労していて、すごく大切なものだと分かったので、いつも当たり前で食べているけどこれからは感謝を込めて食べたいと思った。
- ・一人一人が「受け継いでいく」ということを自覚し、小さいことでも受け継いでいく。
- ・一粒一粒のお米を粗末にしないこと。

日本のお米を守るためにできることは？